

平成24年4月26日 関西広域連合委員会

# 徳島県提出資料

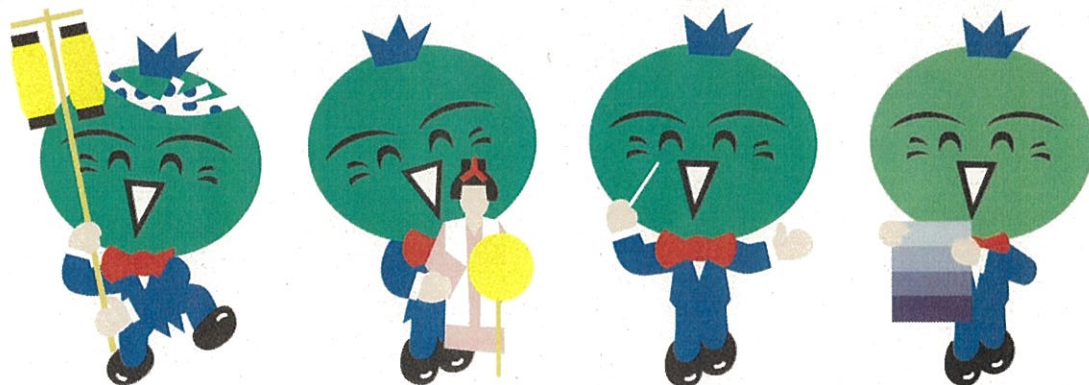
- 「電力融通」のフル活用による日本全体の電力供給の  
安定的確保に向けて…………… P 1
- 関西ライフスタイルの転換に向けた  
「サマータイム」の共同実施…………… P 3

## DISCOVER AWA-STYLE

# あ!わ発見伝

※ 第27回国民文化祭・とくしま2012

2012年9月1日[土]——▶12月14日[金]





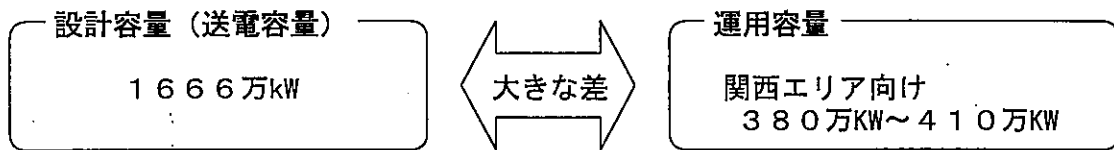
## 「電力融通」のフル活用による日本全体の電力供給の安定的確保に向けて

～「千年に一度の東日本大震災」に起因した「電力危機」を乗り越えるために～

### <視点1>

◇各電力会社間の「地域間連系線」の能力を最大限活用した「電力融通」  
～安全性を考慮した上での「運用容量」の最大限の拡大運用

○電力融通の観点～例えば、中国電力と関西電力の間の「地域間連系線」（資料参照）



○経済産業省：研究会～「地域間連系線の強化」（電力融通の拡大）見直し検討に着手

○最大限の「電力融通」を反映した「電力需給見通し」提示が国民の信頼を得る近道

### <視点2>

◇「緊急時の電力融通」について「国が主導的」に調整する仕組みづくり  
～日本の電力安定供給を念頭に国主導の電力融通システム構築

○現行の地域間連系線による電力融通は、最大限能力が活用されているのか不透明

○「電力危機」を乗り越えるためには、国が強い権限を持った「電力融通」システムが必要

### <視点3>

◇「拡大電力融通」を盛り込んだ今夏電力需給見通しのわかりやすい説明

○「電力供給サイド」のしっかりとした検証結果に、国民的コンセンサスが得られて、初めて、「電力需要サイド」での「節電に向けた計画的な取り組み」も可能となる

### <視点4>

◇全国レベルの需給調整を行った上でそれでも電力需給逼迫の場合  
⇒「地域で生み出した多様なエネルギー」を  
「地域が優先的に使用できる」仕組みの構築

<参考>

電力融通に活用する「地域間連系線」の運用容量

(単位：万kW)

融通受	融通元	送電容量①		運用容量②	比率②／①
		送電容量①	運用容量②		
関西エリア	北陸地域	556	160	28.8%	
	中部地域	556	160～190	28.8～34.2%	
	中国地域	1,666	380～410	22.8～24.6%	
	四国地域	140	140	100%	
	融通計	2,918	840～900	28.8～30.8%	

平成23年度冬季（1.2月～3月）における運用容量算定結果

※電力系統利用協議会（ESGJ）「地域間連系線の運用容量に関する新たな評価について」（平成24年3月7日）を基に作成  
（関西エリアが「融通受け手」となる場合の運用容量）

「送電容量」…設計上の送電容量（能力）

「運用容量」…安定的に送電できる上限容量

## 関西ライフスタイルの転換に向けた「サマータイム」の共同実施

～「ライフスタイルの転換」「電力使用の平準化」「省エネ意識の啓発」一石三鳥の取り組み～

### <徳島県による試行>

◇「節電」並びに「ライフスタイルの転換」を図るため、平成23年度に、徳島県版サマータイム「あわ・なつ時間」として試行。

- 実施概要
- |       |                                          |
|-------|------------------------------------------|
| ①実施期間 | 平成23年7月1日～9月30日                          |
| ②実施対象 | 徳島県庁 本庁舎                                 |
| ③実施内容 | ・始業時間の30分前倒し<br>・昼休み時間のスライド(12:30～13:30) |

### <1 節電効果>

◇実施期間中の電力使用量(総量)が、対前年度比 ▲12.2%となるなど、高い節電効果

- 電力使用量
- |        |                    |
|--------|--------------------|
| <総量>   | ▲12.2%             |
| <ピーク時> | ▲13.0% (午後1時～午後3時) |

### <2 事業者への拡がり>

◇「サマータイム」の趣旨に賛同いただける事業者等にも節電の取り組みが拡大

- 大塚製薬㈱、大塚製薬工場㈱、倉敷紡績㈱、阿南工業高等専門学校ほか



### <関西広域連合としてのサマータイムの取り組み>

◇「電力需給」の見通しが厳しい今こそ、関西広域連合で歩調をあわせた「サマータイム」の取り組みを行うべき

- 全国的に電力需給の見通しが逼迫する今こそ、日本全体で「サマータイム」に取り組むべき。
- こうした中、「関西広域連合」から、歩調を合わせた取り組みを目に見える形で実践し、発信することが重要。

## <参考>

# 徳島県版サマータイム「あわ・なつ時間」について

## 1 実施内容

東日本大震災を契機として、節電をはじめとする省エネ・省資源行動の普及拡大を図り、省エネ社会の実現に向けた取組みを加速させるため、県庁が率先して、「多様なライフスタイルへの転換」、「電力使用の平準化」、「省エネ意識の啓発」を促す「一石三鳥の取組み」として実施。

### ①実施期間

平成23年7月1日～平成23年9月30日

### ②実施対象

県庁本庁舎

### ③実施内容

- ・「始業時間の30分前倒し」
- ・「昼休み時間のスライド（12：30～13：30）」

## 2 実績（本庁舎における節電効果）

### ①電力使用量（総量）

（単位：kWh）

平成22年度	平成23年度	差	削減効果
1,497,590	1,314,840	▲ 182,750	▲12.2%
<b>&lt;要因&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 始業時間を早めることによる空調の弾力的運用</li><li>・ 南北執務室の3灯蛍光灯の真ん中1灯の常時消灯</li><li>・ 非常用エレベーター附室の照明回路に人感センサー設置 等</li></ul>			

### ②電力使用量（ピーク時：午後1時～3時）

（単位：kWh）

平成22年度	平成23年度	差	削減効果
221,760	193,020	▲ 28,740	▲13.0%
<b>&lt;要因&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 昼休みを30分遅らせたこと</li><li>・ 電力ピーク時におけるコピー機等のOA機器の使用の自粛 等</li></ul>			